

やすらぎ通信

第49号（平成26年12月1日） 発行：大阪府立急性期・総合医療センター

師走(しわす)

雪

作詞 作曲 文部省唱歌

雪やこんこ 霰(あられ)やこんこ
降っては降っては ずんずん積る
山も野原も 綿帽子(わたぼうし)かぶり
枯木(かれき)残らず 花が咲く

雪やこんこ 霰やこんこ
降っても降っても まだ降りやまぬ
犬は喜び 庭駈(か)けまわり
猫は火燵(こたつ)で 丸くなる



喫茶室

いろいろあった一年ですが、とうとう今年も最後の月を迎えることとなりました。皆様にとりましては、この1年はどのような年だったのでしょうか。年末には新聞などで恒例の今年の十大ニュースなども発表され、あれが入ってないこれはそれほどでもないだろうと忘年会の話題の一つにもなりそうです。ご家庭においても今年の我が家の十大ニュースなどを家族で食卓を囲んだ際に述べあってみると、共に生活を過ごしていても意外に一つの出来事への捉え方や重要度が異なったりして一人ひとりの個性の集まりが家族なのだ改めて気づくこともあります。

さて、冬に入り家族や仲間たちと食卓を囲むといえは何と言っても多くの方が想い浮かべられるのがなべ料理ではないでしょうか。芸術家で美食でも有名な北大路魯山人も「なべ料理は、気のおけぬごく懇意な間柄の人を招いて、和気あいあい、家族的に賑々しくつきあうような場合にふさわしい家庭料理と言えよう（平野雅章編・魯山人味道）」と述べ、さらに「冬、家庭で最も歓迎される料理は、なべ料理であろう。煮たて、焼きたてが食べられるからである。なべ料理では、決して煮ざましを食べるということはない。クツクツと出来たての料理を食べることが、なによりの楽しみである。だから、なべ料理ほど新鮮さの感じられる料理はない。最初から最後まで、献立から煮て食べるころまで、ことごとく自分で工夫し、加減をしてやるのであるから、なにもかもが生きているというわけである。材料は生きている。料理する者は緊張している。そして、出来たてのものを食べるというのだから、そこにはすきがないのである。それだけになんということなく嬉しい。そして親しみのもてる料理と言えよう（同）」と評しています。そのとおり、なべ料理は簡単に調理ができるうえに常に出来たてで具も味付けもお好みによりけり、しかも冷蔵庫に残っている材料などをかき集めても結構な形に仕上がります。一方凝れば北海道の昆布から始まり厳選された新鮮な材料と各地の名物を惜しげもなく投入しての豪華三昧も自由自在です。そしてそれらの何れの場合にもつくる時から食べるまで皆が一緒にその間もワイワイいろいろな話で盛り上がるのが一番の味わいとなるのではないのでしょうか。

この一年も十大ニュースにかかわらず良いこと悪いことが私たちの身の回りには多数起こったと思えます。もっと平穏な日々がすごせたらと思わないではいけない時もあったでしょう。しかし、いろいろな具が入って鍋のだしが絶妙で奥深い味となるように、今年それぞれの出来事も経験として混ざり合って人生に深い味わいをもたらしてくれるのかもしれない。もう少しで今年も終わりとなります。アツアツのなべを親しい人とふうふう言いながら食べて来年への新たな活力としたいものです。

今月の節気は大雪（だいせつ、12月7日）と冬至（とうじ、12月22日）です。冬至のことを一陽来復（いちようらいふく）とも言います。これは中国の「易経」に出てくる言葉で衰えていた太陽の力が再び勢いを増してくることを示し、そのために新年が来るという意味のほかに悪いことが続いた後に幸運に向かうという意味も込められているそうです。近づく新しい年にいろいろなことを期待したいものです。

【(新) ～地域の医療機関の皆様へ～IVRセンター開設のお知らせ】

“IVR”とは、聞き慣れない言葉だと思います。Interventional Radiology、直訳しますと放射線による介入手技ということになりますが、レントゲンを見ながらいろいろな処置をするということです。主に血管内の「カテーテル治療」を行います。その他にも様々な治療・処置を行います。当施設では、心臓・下肢動脈は心臓血管センター、胸腹部大動脈は低侵襲性心血管治療センター、脳・頸動脈領域は脳卒中センターが担当しており、IVRセンターでは、それ以外の全身を対象とすることになります。

まず、血管内カテーテル治療として、肝細胞癌(HCC)に対する抗癌剤を用いた動注化学塞栓療法(TACE)を行っています。これまでリポドールを用いた conventional TACEを行ってきましたが、本年4月からは薬剤溶出性ビーズ(DEB; Drug Eluting Bead)を導入し、より患者様に負担の少ない治療法としてDEB-TACEを施行しています。

頭頸部腫瘍に対しては、耳鼻科・口腔外科と連携し、抗癌剤動注療法を行っています。

緊急性を必要とする様々な症例にも対応しています。消化管出血として多いのは憩室出血で、内視鏡医と連携して治療を行っています。肝硬変の患者様で多いのは静脈瘤破裂ですが、食道と比べて胃の静脈瘤は内視鏡での治療が難しく、カテーテルによる治療(BRTO, PTOなど)を行います。インターフェロン導入など、血小板が低い場合には、部分的脾動脈塞栓術(PSE)を行います。

呼吸器内科との連携では、喀血の症例に対し、気管支動脈塞栓術(BAE)を行います。

産婦人科との連携では、子宮筋腫に対する子宮動脈塞栓術(UAE)を行っています。子宮腺筋症の患者様にも、適応を拡大して行うこともあります。

泌尿器科との連携では、多発性嚢胞腎の症例に対して、腎動脈の塞栓術を施行します。腹部膨満感、高血圧などに良好な効果を得ることができます。

その他、血管奇形(AVM/AVF)、内臓動脈瘤、術後出血に対する塞栓などにも対応しています。また、カテーテル治療以外には、膿瘍のドレナージや深部腫瘍の生検(CT下、コーンビームCT下、エコー下)なども行います。

今後は、さらに症例の範囲の拡大を目指し、特に進行悪性腫瘍に対する緩和医療としての動注化学塞栓療法の導入を試みています。転移性肝癌、肺癌、膀胱癌などに対する有用性が期待されています。

設備としては、最新のIVRシステムを用いて、血管造影下のコーンビームCTを撮像することが可能です。これにより、適切な血管の選択および注入、適切な経路での



DEB-TACE (HCC)



UAE (子宮筋腫)

穿刺を行うことができ、術の成功および安全に大きく寄与しています。

また、看護師、放射線技師ともに経験豊富なスタッフで構成されており、手技の成功に大きく役立っています。

IVRセンター設立に併せ、2014年11月より、IVRセンター外来を開設しました。毎週木曜日午後に予約を受け付けていますので、紹介状とともに直接当センターを受診して頂けます。診察の上、当科での処置を行う場合には、関係各科に依頼し、協力して治療を行うこととなります。御気軽にご相談にきて頂ければ幸いです。何卒、ご理解、ご協力のほど宜しくお願いいたします。

IVRセンター長 杉原英治

【～地域の医療機関の皆様へ～基幹災害拠点病院からのお知らせ】

9月1日は1923年に発生した関東大震災を忘れることなく災害に備えるための防災の日です。

そのため9月は災害に関して知識を深め、備えを確認する時期でもあります。

大阪府内には19の災害拠点病院があり、当センターが唯一の基幹病院です。

当センターの障がい者医療・リハビリテーションセンター（災害拠点病院支援施設）

は、平時においてはリハビリセンターとして運用していますが、災害時には最大400名の傷病者が仮入院できる臨時病棟のスペースに変化します。

その災害拠点病院支援施設を利用した多数傷病者受け入れ訓練が毎年この時期に行われています。地域の医療機関のスタッフの皆様が医療ボランティアあるいは訓練の見学者として

毎年参加していただいております。今年は計112名の参加を頂きました。

急性期災害医療はDMAT（Disaster Medical Assistance Team）が有名です。DMATとは災害急性期に活動できる機動性を持ったトレーニングを受けた、医師、看護師、事務職員の多職種で編成するチームです。当センターにもDMAT隊員が30名おります。今後は急性期のみならず亜急性期から慢性期の避難所を含めた地域の災害医療の必要性が高まっています。その時期には病診連携が欠かせません。亜急性期から慢性期でのよりよい災害時医療の病診連携の形を構築する必要があると考えております。当センターでは毎年度末に災害医療従事者研修や年2回（1月、9月）の災害訓練を行っております。地域の先生方との連携をとりながら来たるべき、南海トラフ巨大地震に備えたいと考えております。



何卒ご理解ご協力の程よろしくお願い致します。

高度救命救急センター（救急診療科）主任部長 藤見 聡

【～地域の医療機関の皆様へ～

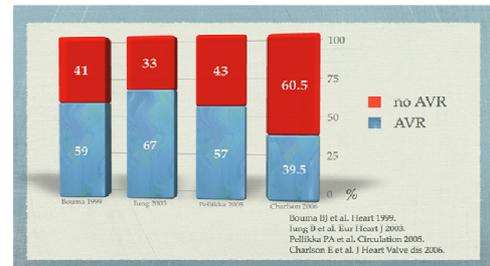
経カテーテル的大動脈弁植え込み術（TAVI）の導入】

「人は血管とともに老いる」。19世紀末の内科医の言葉であります。21世紀に入った現在も血管病の脅威は衰えを知らず、血管だけにはとどまらず、動脈硬化からくる大動脈弁狭窄症（Aortic valve stenosis, AS）も、近年、増加傾向であります。

大動脈弁狭窄症に対する治療は、大動脈弁置換術が標準治療で、成績も良好であります。すべてのAS患者が治療を受けられているわけではありません。様々な合併症でハイリスクという理由であったり、高齢で体力的に自信が無く患者様自身が治療を拒否されたり、といった理由で、多くのAS患者が治療を受けていませんでした。

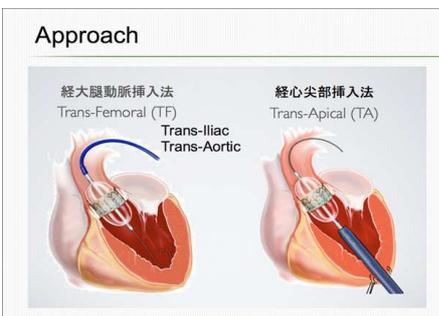
そんな中、2002年に世界初の経カテーテル的大動脈弁植え込み術（Transcatheter Aortic Valve Implantation, TAVI）が、フランスでCribier医師により施行されました。以降、圧倒的な低侵襲性で、ハイリスク患者群を対象とした治療法として確立されてきました。

本邦においては、2013年10月に、その手技が保険認可され、早期成績は、ハイリスク患者を対象としていながら、良好なものとなっております。新しい治療法であるため、遠隔期成績はまだ慎重な観察が必要であります。その低侵襲性から、これまで治療の機会が与えられなかった患者群で



TAVIが施行されるようになってきております。TAVIは、新しい治療法であるため、安全に遂行するために関連学会協議会が定める厳格な施設基準、実施基準があります。また、周術期管理から手術手技まで良好なハートチームの構成が大きく結果に影響していると言われております。

当院では、経験豊富な心臓血管外科医、循環器内科医はもとより、心エコー医、麻酔科医、手術室・病棟看護師、臨床工学技師、放射線技師、CRC、理学療法士等でチームを構成し、総合的、多角的な視野で日々の診療にあたっており、大動脈疾患への



低侵襲治療として、ステントグラフト治療を世界に先駆けて行ってきた歴史があり、また、施設基準も十分に満たしていることから、この度、TAVIの導入を行うことといたしました。現在、ほぼ準備完了しており、近いうちに実施可能となります。

これまで治療を受けられず、なんとか内科的に維持されていた患者様にも、負担の少ない治療を提供することが可能となると見込まれますので、これまで以上に地域の先生方とは密に連携をとりながら、治療に当たっていきたくと考えておりますので、何卒ご理解ご協力をよろしくお願い申し上げます。

低侵襲性心血管治療センター長 白川幸俊

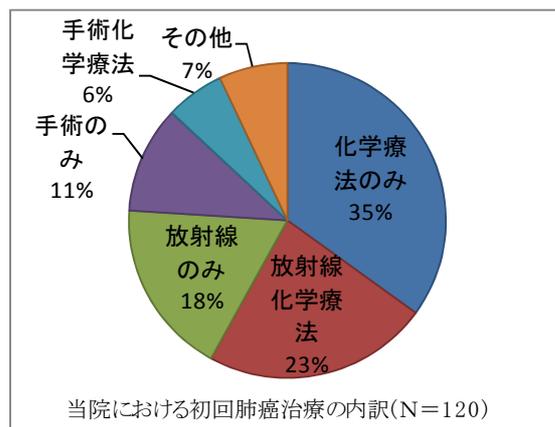
【～地域の医療機関の皆様へ～呼吸器内科から一言】

最近のデータによると、日本人の2人に1人が癌にかかり、3人に1人が癌でなくなる時代です。その中でも肺癌は死亡者数のトップの難治性癌のひとつです。

肺癌の治療方針決定には、肺癌の病理診断が重要になってきました。従来は小細胞肺癌とそれ以外の非小細胞肺癌の2種類の分類で十分でしたが、近年の検討により、一部の抗癌剤は、非小細胞肺癌のうち、扁平上皮癌以外の癌、特に腺癌により効くものが出てきています。また、分子標的治療薬の進歩で、特定の遺伝子の変異のある癌(EGFR, ALK)での分子標的治療薬の治療効果が高いことが解ってきました。

そのため、従来の気管支鏡に加えて、中枢型や末梢型の超音波気管支鏡を使用し、診断率の向上に努めています。

肺癌の治療には、抗癌剤、手術、放射線が挙げられますが、近年、複数の治療を加えた集学的治療が行われています(図参照)。当院には呼吸器内科、呼吸器外科、放射線診断科が揃っており、そこに画像診断科、病理科を加えた肺癌治療カンファレンス(Cancer Board)をもち、より良い治療を検討しています。



肺癌が疑われる患者さんがおられましたら、ご紹介よろしく申し上げます。

呼吸器内科主任部長 上野清伸

【「医療相談」コールセンターのご利用を —地域医療連携センター—】

患者さんやご家族などからの医療や病院利用に関するご相談を、専門の看護師が電話でご相談に応じさせていただく「医療相談」コールセンターを開設運用しております。是非お気軽にご利用ください。

電話番号は 06-6692-2800 (専用電話回線)

06-6692-2801 (専用電話回線)

相談日時 月曜日～金曜日 午前9時～午後5時

(年末年始、土・日・祝日除く)

相談対象 医療相談を希望されるご本人若しくはご家族等

相談員 看護師

【診察予約変更センター 9診療科において診察の予約日・時間の変更を電話で受け付けています！】

当センターでは、下記の9診療科を対象に、電話で診察時間の予約の変更ができるよう「診察予約変更センター」を設置しています。是非、積極的にご活用ください。なお、このサービスは初診に関しては行っておりませんので、ご注意くださいよ

うお願いします。

(電話番号) 06-6692-1201 (代表)にダイヤルして

「予約変更センター」と言ってください。

(受付時間) 午後3時～午後5時(平日のみ)

(対象診療科) 呼吸器内科 消化器内科 糖尿病代謝内科

皮膚科 形成外科 腎臓・高血圧内科

神経内科 脳神経外科 耳鼻咽喉・頭頸部外科

【入院治療費や外来での検査費用の概算を予めお知らせするサービスをしています】

当センターにおきましては、入院患者さんへのサポートを総合的・集約的に行う入院センター（やすらぎセンター）におきまして、ご入院申し込み時に予め標準的な治療を行った場合の概算費用をお知らせするサービスを行っています。

また、CT、MRI、RI、エコー検査など検査費用の概算を医療・福祉相談コーナーなどでお知らせするサービスも行っていきます。

今月の催し

【すこやかセミナー「慢性腎臓病の最新情報」

「透析にならないために、今すべきこと」

日 時 12月11日（木） 午後2時～3時
場 所 本館3階 講堂
講 師 腎臓・高血圧内科主任部長 林 晃正
腎臓・高血圧内科医員 光本憲祐
参加費 無料

【(新) 絵てがみ講習会】

日 時 12月12日（金） 午後2時～4時
場 所 本館1階 アトリウム
参加費 無料

【府民公開講座「肺癌を知ろう～肺がんの最新治療～」】

日 時 12月13日（土） 午後1時30分～3時
場 所 本館3階 講堂
講 師 呼吸器外科主任部長 大森謙一



参加費 無料

【(新) 大正琴コンサート】

日 時 12月15日(月) 午後2時～3時
場 所 本館3階 講堂
出 演 アムール・エ・レーヴ
入場料 無料

【相愛大学連携 第43回外来糖尿病教室

知って得する！ 糖尿病との付き合い方】

日 時 12月16日(火) 午後2時～
場 所 本館1階 アトリウム
内 容 気をつけよう！合併症(糖尿病代謝内科副部長 畑崎聖弘)
感染対策とシックデイ(糖尿病看護認定看護師 後藤博美)
年末・年始対策(栄養管理室管理栄養士 笠井香織)
参加費 無料

【平成26年度第2回リウマチ教室】

日 時 12月16日(火) 午後2時～4時
場 所 本館3階 講堂
内 容 関節リウマチ～目標達成に向けた治療～
(免疫リウマチ科主任部長
関節リウマチ・バイオサポートセンター長 藤原弘士)
筋力低下の予防と関節の負担を軽減できるリハビリ体操
(理学療法士 佐藤誠司)
気をつけたい感染予防の基礎知識(感染管理認定看護師 扇田千代)
参加費 無料



【第36回相愛大学連携コンサート「フルートオーケストラ」

～2014年の年納め 感動のシンフォニック・フルートが冬を熱くする～】

日 時 12月24日(水) 午後2時～
場 所 本館3階 講堂
出 演 [指揮] 相愛大学音楽学部教授 竹林秀憲
[演奏] 相愛大学フルート専攻生16名によるフルートオーケストラ
入場料 無料

【第14回病院ギャラリー企画展

須田剋太「街道をゆく」挿絵原画展 —大徳寺散歩—

『街道をゆく』は、司馬遼太郎氏が、1971年から1996年まで、25年以上にわたって週刊朝日に連載し、単行本にもなっている歴史紀行文学です。国内各地はもちろん、中国やモンゴル、さらには遠く南蛮(スペイン、ポルトガル)やオランダ、アイルランドをはじめ世界各地の街道も訪ね、司馬氏の洞察力に富んだ味わい深い文章により、その国や地域の歴史と風土を描いています。須田剋太は連載開始から1990年までの約20年間、司馬氏に同行してスケッチを重ね、「街道をゆく」の挿絵を制作しました。

それらの作品は、挿絵として各地の雰囲気を伝え読者を楽しませるだけでなく、独特の画風で色彩豊かに描かれ、絵画作品としても優れたものとなっています。[大阪府立江之子島文化芸術創造センターホームページ内の解説文より抜粋]

今回は第13回に引き続き、須田剋太が描いた「街道をゆく」シリーズの中から『大徳寺散歩』を紹介させていただきます。

(本企画展は、大阪府江之子島文化芸術創造センターのご協力を得て実施します。)

開催期間 2014年11月10日(月)～2015年2月13日(金)まで

展示場所 本館2階 病院ギャラリー

展示作品 大徳寺散歩 28枚

【(予告) 第27回万代・夢寄席「新春太神楽」】

日時 1月8日(木) 午後2時～3時

場所 本館3階 講堂

出演 豊来家玉之助

参加費 無料



【(予告) 相愛大学連携 第44回外来糖尿病教室

知って得する！ 糖尿病との付き合い方】

日時 1月20日(火) 午後2時～

場所 本館1階 アトリウム

内容 糖尿病〇×クイズ あなたはどれだけ知っていますか

(糖尿病代謝内科医長 藤木典隆)

糖尿病の内服薬について (薬局薬剤師 津田武典)

アルコールについて (栄養管理室管理栄養士 笠井香織)

参加費 無料

【(予告) すこやかセミナー「一人で悩まない、子宮脱、尿漏れの治療」】

日時 1月23日(金) 午前11時～12時

場 所 本館3階 講堂
 講 師 産婦人科主任部長 竹村昌彦
 参加費 無料

【(予告) 第37回相愛大学連携コンサート「声楽」】

日 時 1月28日(水) 午後2時～
 場 所 本館3階 講堂
 出 演 [声楽] 沼田葉子
 [ピアノ] 鎌田史子
 入場料 無料

Topics



【管理栄養士のコーナー】 ~ちょっとおいしい話~

今年も残りわずかとなり、一年間の総まとめと、新しい年を迎える準備で、気忙しく感じる頃となりました。

年末の恒例行事といえば、家族総出で大掃除、おせち作りを終えて、最後に年越しそばで温まるのが定番でした。最近では『おせちは豪華に購入で』という方も増えています。おせち料理は保存性を高めた料理の為、全般的に味付けは濃厚なものが多く、食べる量には少し注意が必要ですね。今月は、定番のおせち料理から『来年もまめ(真面目)に働き、まめ(健康的)でありますように』との願いをこめた『黒豆』と、箸休めにぴったりで、さわやかな酸味の『ゆずの香なます』をご紹介します。

黒 豆		ゆずの香なます			
《材 料 (作りやすい分量 5人分)》		《材 料 (作りやすい分量 5人分)》			
黒 豆(丹波黒)	100 g	大 根 6cm	250 g		
A {	砂 糖(きび砂糖など)	70 g	人 参	50 g	
	しょうゆ	小さじ 2 杯	ゆず皮	1/4 個分	
		4 カップ(800 ml)	B {	米酢	70 ml
	重曹(タンサン)	小さじ 1/2 杯		みりん	大さじ 3
* 料理用 鉄製品(漬物用やさび釘)など		さとう	小さじ 2		
		だし昆布	約 5×5 cm		
		水	120 ml		
		ゆず果汁	1/4 個分		

黒豆〔1人分 エネルギー:105kcal たんぱく質:7.2g 脂質:3.8g 塩分:0.2g〕

- ① 黒豆はボールに入れ、水でやさしく洗い、ザルにあげる。
- ② 黒豆以外の材料Aを深めの鍋に入れませる。
あれば、* 漬物用等の鉄製品か、鉄釘を入れると真っ黒く仕上がります。
- ③ 洗った豆を②の鍋に入れ、一晩つけおく。(9時間程度)
- ④ 一晩おいた鍋を中火にかけて、沸いたらアクをとる。
- ⑤ 耐熱性のクッキングペーパーなどで落しぶたをする。
- ⑥ 豆が踊らない程度の弱火で、ふたをずらして吹きこぼれないように注意しながら4、5時間程度豆がやわらかくなるまで煮る。
- ⑦ 途中で差し水をしながら、煮汁がひたひたに残るように仕上げます。

高価ですが、12月に新豆が収穫される、丹波の黒豆がおすすめです。
鉄製小物は、なくても作れます。残ったら、密閉容器で冷凍保存できます。

ゆずの香なます〔1人分 エネルギー:25kcal たんぱく質:0.4g 脂質:0.1g 塩分:0.7g〕

- ① Bの材料を鍋に入れ、ひと煮立ちしたら、昆布を取り出し冷ましておく。冷ましたものに、ゆず果汁を加える。
- ② 大根、人参は、それぞれ5cm程度の千切りにし、塩水に10分程度つける。
*塩水(塩小さじ1杯と1/2、水500ml 分量外)
- ③ ゆず皮の黄色い部分のみを、細かく千切りにする。
白いわたの部分は苦味があるので入らないようにします。
- ④ ②をしっかりと絞り、①の合わせ酢大さじ3杯程度と③のゆず皮をまぜ合わせて、もう一度絞ります。
- ⑤ 絞ったものに、再度合わせ酢をなじませて出来上がりです。

黒豆の栄養は大豆と同じです。高たんぱくで、カリウムなどのミネラルも多く含んでいます。鉄製品を入れると、皮に含まれる色素(アントシアニン)と鉄イオンが結合することで、煮汁へ溶けにくくなり、黒く仕上がります。

大根は、生食の場合は、アミラーゼ、プロテアーゼ等の消化酵素を含み、消化を助けてくれます。酢物、大根おろしを利用したドレッシングやたれを作ってみましょう。

栄養管理室 管理栄養士 伊藤聡恵

今月のひまわりさん

各種窓口でセンターご利用のお手伝いをさせていただいている医事事務委託会社ソラストの窓口担当を紹介させていただくコーナーです。

【(新) 画像診断科担当 塚原さんの巻】

私は RI (核医学) ・PET 検査の受付、予約業務を担当しています。

RI とは、検査用の薬を注射した後に体の外側から検査用のカメラで撮影して臓器の形や血流の流れなどを調べる検査です。RI は心臓、脳、骨、腎臓の臓器別に検査が分かれています。

検査に用いる薬剤は「放射性医薬品」という人工的に作られた放射性同位元素(ラジオ・アイソトープ:RI)を含んでいます。この薬剤からはごく微量の放射能が出ますが、これによる副作用はほとんどありません。また RI で治療薬として使用している薬剤の中にも放射能が含まれているものがあります。放射能という言葉を聞くとほとんどの患者様は不安を感じられるので、できるだけ安心して検査を受けて頂けるように、検査の内容や安全性をわかりやすく説明するようにしています。これからも、患者様とのコミュニケーションを良く取り、気持ちよく検査を受けて頂くお手伝いができればと思っています。

その他のお知らせ

【「急性期・総合医療センターの最新治療がわかる本」が出版中です！】

府民の皆さま向けに、当センターで行われている最新治療をご紹介する書籍を出版しました。当センターの医師や看護師らが、分かりやすく、簡潔に、しかも必要な情報はきちんと把握できるように執筆しています。

この本は、いわゆる医学書や診療ガイドブックではなく、健康なときから病気にかかったときまで、府民がよりよい治療を選択する際に役立つ健康情報を掲載しています。病気を理解し、よりよい治療を選択するための案内書としてご活用いただければ幸いです。



価 格：1,998 円 (消費税 8%込)

◇当センター内のローソンや近隣の一般書店等で販売します。

◇当センター内のローソンでは、下記の方を対象に割引販売を実施します。

・当センターの診察券をレジで提示いただいた方

- ・当センターで開催されるイベント参加者にお配りする書籍の案内リーフ（割引券付き）をレジで提示いただいた方
割引価格：1,700円（消費税8%込）

【(新) Facebook ページ開設のお知らせ】

12月1日（月）より、当センターのFacebook ページを開設いたします。最新医療技術やイベント等のご案内を掲載してゆきますので、どうぞご覧ください。（Facebook のアカウントをお持ちでない方でも、ご覧いただけます。）

(URL) <https://www.facebook.com/osakageneralmedicalcenter>

※「大阪府立急性期・総合医療センター Facebook」で検索も可能です。

【医療費の支払いはキャッシュカードでできます！】

当センターの医療費自動精算機は、デビットカード対応となっておりますので、ほとんどの金融機関のキャッシュカードでお支払いができます。

これらの金融機関はJ-Debit に加盟していますので、キャッシュカードに自動的にデビット機能が付与されているからです。（ただし、キャッシュカードでお支払いいただいた場合は即座に口座から引き落とされることとなるため、口座に引き落とし金額以上の残高が必要ですのでご注意ください。また、デビット機能が付与されていないカードもありますので、ご注意ください。）

このため、医療費の支払いのための現金を持たなくても、キャッシュカードさえあればお支払いが可能です。

また、引き落としの手数料は不要ですので大変便利です。是非ご利用ください。なお、合わせて一般のクレジットカードでのお支払いもできます。

【やすらぎ通信はメルマガで！】

「やすらぎ通信」は、メルマガでも配信しております。ご希望の方は、当センターホームページの「メールマガジン申込み」からアドレスを登録していただきますようお願いいたします。なお、ホームページの検索は、「大阪府立急性期・総合医療センター」にて可能です。

当センターは、当センターが「希望の医療空間」「よろこびの医療空間」「やすらぎの医療空間」となるよう日々努力しています。